

1. 評価報告概要表

全体を通して(※このホームの優れている点、独自に工夫している点など)	
<p>田園地帯に位置し、昔ながらの住宅地の一角にあるグループホームであった。管理者が長年住み慣れた地域であるため、地域の方との交流も良好であり、老人会や子供会とも活発な交流が図られていた。”その人らしく、心ゆたかに、安心と安らぎのある暮らし”という理念が、職員全体にいきとどき、入居者の方がゆったりと落ち着いた雰囲気の中で過ごされていた。同じ地域にあるグループホームや宅老所とも、季節の行事を共にするなど、友好的な関係作りに努められていた。また、小規模ながら職員の福利厚生が充実し、それが日々の業務にも効果的に反映されていた。職員の研修にも力が入られ、個々のスキルアップに積極的に取り組まれていた。</p>	
分野	特記事項(※優先順位の高い要改善点について)
I	要改善点は特になし(現状維持、そして更なる充実が期待される)。
運営理念	
II	要改善点は特になし(現状維持、そして更なる充実が期待される)。
生活空間づくり	
III	要改善点は特になし(現状維持、そして更なる充実が期待される)。
ケアサービス	
IV	事故報告書・ヒヤリハット報告書をマイナスイメージでとらえず、サービスの改善につなげるという意識のもと、ホーム独自の形式を整備され、サービス改善に活用されることが望まれる。
運営体制	

分野・領域		項目数	「できている」項目数
			外部評価
I 運営理念			
①	運営理念	4項目	4
II 生活空間づくり			
②	家庭的な生活環境づくり	4項目	4
③	心身の状態に合わせた生活空間づくり	6項目	6
III ケアサービス			
④	ケアマネジメント	7項目	7
⑤	介護の基本の実行	8項目	8
⑥	日常生活行為の支援	10項目	10
⑦	生活支援	2項目	2
⑧	医療・健康支援	9項目	9
⑨	地域生活	1項目	1
⑩	家族との交流支援	1項目	1
IV 運営体制			
⑪	内部の運営体制	10項目	9
⑫	情報・相談・苦情	2項目	2
⑬	ホームと家族との交流	3項目	3
⑭	ホームと地域との交流	4項目	4

2. 評価報告書

項目番号		項目	できている	要改善	評価不能	判断した理由や根拠	改善すべき点等の特記事項
外部	自己						
		I 運営理念 1. 運営理念の明確化					
1	1	○理念の具体化及び運営理念の共有 管理者は、認知症高齢者グループホーム（以下「グループホーム」という。）に関わる法令の意義を理解しており、これを自らが所属するグループホーム（以下「ホーム」という。）の運営上の方針や目標等に具体化し、介護従業者に日常的に話している。	○			運営上の方針については職員全体に周知徹底されていた。また、その都度話し合いや申し送りの中でも理念に関した話がされていた。	
2	3	○運営理念の明示 ホームの運営理念を利用案内時の説明文書及びホームの見やすいところに明示し、かつ、入居者及びその家族等に分かりやすく説明している。	○			パンフレットの表紙に明記され、ホーム内の見やすいところに掲示されていた。また、入居時には利用者・家族に対し、説明がなされていた。	
3	4	○権利・義務の明示 利用者の権利・義務を利用案内時の説明文書及び契約書に分かりやすく示し、かつ、入居者及びその家族等に説明し同意を得ている。	○			契約書に明示され、入居時に利用者及び家族に説明の上、同意のサインをもらわれていた。	
		2. 運営理念の啓発					
4	5	○運営理念の啓発 ホームの運営理念や役割が地域に理解されるよう、地域に対する運営理念の啓発・広報に取り組んでいる。（ホームの説明会、ホーム便り等）	○			運営推進会議が開催されると共に、地域活動には積極的に参加され、その中でホームの役割等々の啓発・広報に努められていた。	
運営理念 4項目中 計			4	0	0		
		II 生活空間づくり 1. 家庭的な生活空間づくり					
5	6	○気軽に入れる玄関まわり等の配慮 違和感や威圧感を感じさせず、入居者や家族が入りやすく、近隣の住民も訪ねやすいよう、玄関まわりや建物の周囲に、家庭的な雰囲気づくりの配慮をしている。（玄関まわりに草花を植える、親しみやすい表札をかける等）	○			玄関まわりには、季節の花が植えられ、華やかな装飾はさけ、家庭的な雰囲気作りに努められていた。	
6	7	○家庭的な共用空間づくり 共用の生活空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、いずれも家庭的な雰囲気を有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的である。	○			季節に応じた手作りの壁掛けや、小物が飾られ、共用空間は家庭的な温かい雰囲気であった。	

項目番号		項 目	できて いる	要 改善	評 価 不 能	判断した理由や根拠	改善すべき点等の特記事項
外部	自己						
7	8	○共用空間における居場所の確保 共用空間の中に、入居者が一人になったり気のあった入居者同士で自由に過ごせるような居場所を確保している。	○			リビングにはソファ、絨毯の上には座椅子が置かれ、利用者の方が思い思いの場所でくつろげる配慮がなされていた。	
8	9	○入居者一人ひとりにあわせた居室の環境づくり 居室には、使い慣れた家具や生活用品、装飾品等が持ち込まれ、安心して過ごせる場所となっている。	○			思い思いの調度品が持ち込まれたり、入居者一人ひとりの個性にあった部屋づくりに努められていた。	
家庭的な生活環境づくり 4項目中 計			4	0	0		
		2. 心身の状態にあわせた生活空間づくり					
9	11	○身体機能の低下を補う配慮 入居者の身体機能の低下にあわせて、安全かつできるだけ自立した生活を送れるようにするための設備や工夫がある。(すべり止めや要所への手すり等の設置、浴槽・便座・流し台等の使い勝手の工夫、物干し等の高さの調節等)	○			居室と廊下の段差解消、廊下・トイレには手すりの設置、必要に応じて取り外し可能なスロープも利用され、入居者の状態に応じ使用されていた。	
10	13	○場所間違い等の防止策 職員は、入居者一人ひとりがホーム内の場所が分かるかを把握しており、家庭的な雰囲気をこわさず、場所の間違いや分からないことでの混乱を防ぐための工夫をこらしている。(トイレや部屋の目印等)	○			居室には名札がかけられ、風呂場・トイレ等には大きめの文字で、わかりやすいよう表示がなされていた。	
11	14	○音の大きさや光の強さに対する配慮 入居者が落ち着いて暮らせるように、音の大きさや光の強さに配慮している。(テレビ、職員の会話のトーン、照明の強度、まぶしさ、日射し等)	○			職員は会話のトーンにも配慮し、テレビの音量や照明の強度についても適宜対応されていた。リビングは南向きで、自然の光が十分に取込まれていた。	
12	15	○換気・空調の配慮 気になる臭いや空気のだよみがないように、換気を適宜行っている。また、冷暖房の温度調節は、冷やし過ぎや暖め過ぎがないように適切に行っている。	○			居室は全室24時間換気システムが取り付けられていた。また、できるだけ窓を開け、臭気・換気には配慮されていた。温度調節についても温度計を設置し、適度な温度が保たれていた。	
13	17	○時の見当識への配慮 見やすく、馴染みやすい時計や暦を、目につくところに設置している。	○			リビングや廊下に、カレンダーや文字の大きい見やすい時計が置かれていた。また、居室にもそれぞれ好みのカレンダーが飾られていた。	
14	18	○活動意欲を触発する物品の用意 入居者の活動意欲を触発する馴染みの物品を用意し、本人の経験や状況に応じて提供している。(ほうき、たらい、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品等)	○			掃除用具・裁縫道具・園芸用品・お手玉・カラオケなどを準備し、入居者それぞれの生活の質を高めるために、本人の苦痛にならないよう配慮しながら適宜対応されていた。	
心身の状態に合わせた生活空間づくり 6項目中 計			6	0	0		

項目番号		項 目	できて いる	要 改善	評 価 不 能	判断した理由や根拠	改善すべき点等の特記事項
外部	自己						
		Ⅲ ケアサービス 1. ケアマネジメント					
15	20	○個別具体的な介護計画 アセスメントに基づいて、入居者主体の目標を立て、入居者一人ひとりの特徴を踏まえた具体的な介護計画を作成している。	○			アセスメントを基に、介護計画が作成されていた。入居後変化するニーズに合わせ再アセスメントも実施され、介護計画の変更も行なわれていた。	
16	21	○介護計画の職員間での共有 介護計画を、すべての職員の気づきや意見を採り入れて作っており、すべての職員が計画の内容を知ることができる仕組みを作っている。	○			介護計画は日々の介護記録に綴られており、全ての職員がいつでも目を通せるようになっていた。また、日誌には職員の気づきや意見が書かれ、それが計画の中に反映されていた。	
17	22	○介護計画への入居者・家族の意見の反映 介護計画を、入居者や家族とも相談しながら作成している。	○			入居時に家族からの情報収集に努め、本人・家族の希望を取り入れながら、介護計画が作成されていた。	
18	23	○介護計画の見直し 介護計画に実施期間を明示して、その期間が終了する際に見直しを行うことはもとより、状態変化に応じた随時の見直しを行っている。	○			介護計画には実施期間が明示され、見直しも行なわれていた。また、状況の変化に応じた見直しも、期間内であっても随時行なわれていた。	見直しは随時行なわれていたが、記録の中に評価が明記されていなかった。評価の項目も入れ、さらに記録を整備される事が望まれる。
19	24	○個別の記録 日々の介護や介護計画に反映させるため、入居者一人ひとりの特徴や変化を具体的に記録している。	○			個別ファイルが作られ、日々の状況・身体状況等の記録がとられていた。	
20	25	○確実な申し送り・情報伝達 職員の申し送りや情報伝達を確実に言い、重要な点はすべての職員に伝わる仕組みを作っている。	○			申し送りは口頭と連絡帳で行なわれ、全職員で把握できるようになっていた。伝達が不十分と判断した場合、繰り返しの申し送りも行なわれていた。	
21	26	○チームケアのための会議 チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、すべての職員で、定期的に(緊急案件がある場合にはその都度)会議を開催し、活発に意見交換を行って合意を図っている。	○			月1回の会議の中で、参加者全員による意見交換が行なわれていた。検討する課題が生じた場合、その日の職員で随時話し合いが持たれ、それを全体に広げていくよう努力されていた。	
ケアマネジメント 7項目中 計			7	0	0		

項目番号		項 目	できて いる	要 改善	評 価 不 能	判断した理由や根拠	改善すべき点等の特記事項
外部	自己						
		2. ホーム内でのくらしの支援(1)介護の基本の実行					
22	27	○入居者一人ひとりの尊重 職員は、常に入居者一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応を行っていない。(入居者一人ひとりの違いの尊重、さりげない介助、プライベートな場所での礼儀、本人の返答能力に応じた質問方法、本人が思っている「現実」を否定しない等)	○			入居者の人格を尊重し、プライドを傷つけず、それぞれの意思を大切にしよう努められていた。不適切な対応が認められた場合、その都度注意し、それを全体に広げ注意を促すようにされていた。	
23	28	○職員の穏やかな態度 職員の言葉かけや態度はゆったりしており、やさしい雰囲気で見守っている。	○			時間に追われずゆったりとした雰囲気を心がけ、言葉かけも優しくするように努められていた。	
24	30	○入居者一人ひとりの過去の経験を活かしたケア 入居者一人ひとりの生まれてからこれまでの生活歴、本人にとって大切な経験や出来事を知り、その人らしい暮らしや尊厳を支えるためにそれを活かしている。	○			入居者の生活歴や習慣・考え方・性格にあった対応に努められていた。	
25	32	○入居者のペースの尊重 職員は、職員側の決まりや都合で業務を進めていく態度ではなく、入居者が自由に自分のペースを保ちながら暮らせるように支えている。	○			生活のリズムを大切にされながら、危険や他入居者に迷惑のかからない範囲で配慮するよう対応されていた。	
26	33	○入居者の自己決定や希望の表出への支援 職員は、入居者一人ひとりが自分で決めたり希望を表したりすることを大切にし、それらを促す取組を日常的に行っている。(選んでもらう場面を作る、選ぶのを待つ等)	○			外食の機会、外出の機会など選択の場を設け、入居者の意思の表出と選択の自由を尊重されていた。	
27	35	○一人でもできることへの配慮 自立支援を図るために、入居者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○			入居者が自分の意思でできる事を尊重し、生活リハビリに努められていた。危険を伴う可能性のあるものについては、一緒に行なったり見守りされていた。	
28	37	○身体拘束のないケアの実践 身体拘束は行わないということをすべての職員が正しく認識しており、身体拘束のないケアを実践している。	○			身体拘束のないケアを実践されていた。	
29	38	○鍵をかけない工夫 入居者の自由な暮らしを支え、入居者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむような配慮をしている。やむを得ず鍵をかける場合は、その根拠が明白で、その理由を家族に説明している。(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)	○			入居者の外出傾向を職員が把握し、昼間は鍵をかけず、入居者の居場所の確認が随時行なわれていた。	
介護の基本の実行 8項目中 計			8	0	0		

項目番号 外部 自己	項 目		できて いる	要 改善	評 価 不 能	判断した理由や根拠	改善すべき点等の特記事項
		(2)日常生活行為の支援 1) 食事					
30	43	○馴染みの食器の使用 家庭的な食器を使っており、茶碗や湯呑み、箸等は、入居者一人ひとりが使い慣れたものになっている。	○			入居者の使い慣れた茶碗や湯飲みが持ち込まれ、使用されていた。	
31	44	○入居者一人ひとりにあわせた調理方法・盛り付けの工夫 入居者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせた調理方法としつつ、おいしいような盛り付けの工夫をしている。	○			家庭でできる範囲での盛り付けの工夫がなされていた。嚥下困難等がない場合は、出来るだけ日常の食事の形態を大事にし、個々の状況に合わせて刻み・粥食となっていた。	
32	45	○個別の栄養摂取状況の把握 入居者一人ひとりの摂取カロリーや水分摂取量、栄養バランスを、一日全体を通じておおそ把握している。	○			材料購入時においても、栄養のバランスを考えられ、一人ひとりのおおその摂取カロリーは把握されていた。	
33	47	○食事を楽しむことのできる支援 職員も入居者と同じ食事を一緒に楽しんで食べながら、食べ方の混乱や食べこぼし等に対するサポートをさりげなく行っている。	○			職員も入居者と一緒に食事を楽しみながら、さりげなくサポートされていた。	
		2) 排泄					
34	48	○排泄パターンに応じた個別の排泄支援 おむつをできる限り使用しないで済むように、入居者一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	○			排泄パターンを把握し、トイレ誘導を行なう事により、排泄の自立に向けての改善がみられた。	
35	50	○排泄時の不安や羞恥心等への配慮 排泄の誘導・介助や確認、失禁の対応は、不安や羞恥心、プライバシーに配慮して行っている。	○			排泄の誘導、失禁時の介助は出来るだけさりげなく行い、プライバシーに配慮されていた。	
		3) 入浴					
36	53	○入居者一人ひとりの希望にあわせた入浴支援 入居者一人ひとりの希望にあわせ、くつろいだ入浴ができるように支援している。(時間帯、長さ、回数等)	○			入浴は本人の希望を重視し、不必要な介助は行わず見守り、必要な部分のみの介助に努められていた。	
		4) 整容					
37	56	○理美容院の利用支援 入居者一人ひとりの希望にあわせて、理美容院の利用を支援している。(カット、パーマ、染め、セット等)	○			家族の同意のもと、本人の希望する理美容院に行かれたり、訪問理美容を利用されていた。	

項目番号		項 目	できて いる	要 改善	評 価 不 能	判断した理由や根拠	改善すべき点等の特記事項
外部	自己						
38	57	○プライドを大切にした整容の支援 整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にしてさりげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○			静かに声かけを行い、プライドを傷つけないような、さりげない支援がなされていた。	
		5) 睡眠・休息					
39	60	○安眠の支援 入居者一人ひとりの睡眠の 패턴を把握し、夜眠れない入居者には、1日の生活リズムづくりを通した安眠策を取っている。	○			一人ひとりの睡眠の 패턴が把握され、眠剤には頼らず、生活のリズムを整え、散歩など日中の活動により、安眠支援が図られていた。	
日常生活行為の支援 10項目中 計			10	0	0		
		(3)生活支援					
40	64	○金銭管理の支援 入居者が自分でお金を持つことの大切さを職員が分かっており、日常の金銭管理を本人が行えるよう、入居者一人ひとりの希望や力量に応じて支援している。	○			本人・家族の了解のもと職員が管理されているが、買い物時には本人の力量に応じて対応されていた。	
		(4)ホーム内生活拡充支援					
41	66	○ホーム内の役割・楽しみごとの支援 ホーム内で入居者一人ひとりが楽しみごとや出番を見い出せるよう、場面づくり等の支援を行っている。(テレビ番組、週刊誌、園芸、食器洗い、掃除、洗濯物たたみ、小動物の世話、新聞取り等)	○			洗濯物たたみ、茶碗拭き、野菜づくりなど、無理強いすることなく入居者の方が自然な形でできることが支援されていた。	
生活支援 2項目中 計			2	0	0		
		(5)医療機関の受診等の支援					
42	68	○医療関係者への相談 心身の変化や異常発生時に、気軽に相談できる医療関係者を確保している。(医師、歯科医師、保健師、看護師等)	○			協力医療機関が確保され、緊急時には連携が図られていた。	
43	73	○早期退院に向けた医療機関との連携 入院した場合、早期退院のための話しあいや協力を医療機関と行っている。	○			医療機関とは家族も含め密に連絡が取られていた。退院後の対応についても話し合いが行なわれていた。	
44	74	○定期健康診断の支援 年に最低1回は、健康診断や医師の指導を受けられるように支援している。開設間もないホームは、健康診断を受けられる準備や体制を整えている。	○			現在入居者全員が医療機関にかかっており、それぞれの主治医のもとで受診時に健診も行なわれていた。	

項目番号		項 目	できて いる	要 改善	評 価 不 能	判断した理由や根拠	改善すべき点等の特記事項
外部	自己						
		(6)心身の機能回復に向けた支援					
45	76	○身体機能の維持 認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下、平衡感覚の悪化、嚥下機能の低下等)を理解し、買い物や散歩、調理、楽しみごと等の日常生活の中で自然に維持・向上するように取り組んでいる。	○			身体機能の低下防止に向け、生活の中で出来る事は本人にしてみもらい、転倒に気をつけながら、積極的に散歩などが実施されていた。	
		(7)入居者同士の交流支援					
46	78	○トラブルへの対応 職員は、入居者同士のけんかやトラブルの原因を把握し、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の入居者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○			入居者同士のトラブル時には、スタッフが間に入り、それぞれの言い分を納得いくまで聞かれ、穏やかに対応されていた。	
		(8)健康管理					
47	80	○口腔内の清潔保持 入居者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないよう、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	○			毎食後口腔ケアを促し、一人でできない方には援助されていた。	
48	83	○服薬の支援 職員は、入居者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量を承知しており、入居者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、症状の変化を確認している。	○			薬の内容や注意事項は個人のファイルに綴じられ、当日の服薬はチェック表で確認されていた。内服薬変更時には申し送りノートに記載し、全員が把握できるようにされていた。	
49	85	○緊急時の手当 入居者のけが等の緊急時に、職員は応急手当を行うことができる。(けが、骨折、発作、のど詰まり等)	○			職員は准看護師やヘルパーの資格を持ち、介護経験があり、ある程度の対応は可能であった。また、AED等救急法の講習も受講されていた。	
50	86	○感染症対策 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している。(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA等)	○			マニュアルが作成され、その都度対応されていた。手洗い・手指消毒を徹底し、予防にも努められていた。	
医療・健康支援 9項目中 計			9	0	0		

項目番号		項 目	できて いる	要 改善	評 価 不 能	判断した理由や根拠	改善すべき点等の特記事項
外部	自己						
		3. 入居者の地域での生活の支援					
51	90	○ホームに閉じこもらない生活の支援 入居者が、ホームの中だけで過ごさずに、積極的に近所に出かけて楽しめるような雰囲気を作っている。(買い物、散歩、近隣訪問、集会参加等)	○			外食・買い物・散歩や地域の行事への参加など、日常的に外出の機会が多く設けられていた。	
地域生活 1項目中 計			1	0	0		
		4. 入居者と家族との交流支援					
52	94	○家族の訪問支援 家族が気軽に訪問でき、訪問時は居心地よく過ごせるような雰囲気を作っている。(来やすい雰囲気、歓迎、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○			家族の訪問時には気軽に過ごせるよう、コーヒーやお茶を出され、雰囲気作りに努められていた。遠方からの訪問時には、宿泊も可能であった。	
家族との交流支援 1項目中 計			1	0	0		
		IV 運営体制 1. 事業の統合性					
53	96	○責任者の協働 法人代表者及び管理者は、ケアサービスの質の向上に熱意を持ち、それぞれの権限や責任をふまえて、共に取り組んでいる。	○			管理者は職員と共に、入居者のニーズに沿ったケアの実践に努められていた。	
54	97	○職員の意見の反映 介護従業者の採用、運営方法、入居者の受入れや入居継続の可否については、職員の意見を聞いている。	○			月1回全員参加の会議が開かれ、管理者及び職員間で、入居者の受け入れや、入居継続についても話し合いが行なわれていた。	
		2. 職員の確保・育成					
55	101	○入居者の状態に応じた職員の確保 入居者の状態や生活の流れを支援するために、これに即した職員の勤務ローテーションを組んでいる。	○			入居者の状態に応じた勤務体制がとられていた。	
56	103	○継続的な研修の受講 職員が、採用時、フォローアップ等それぞれの段階に応じた研修を受講し、その内容をすべての職員に周知している。	○			常勤・非常勤を問わず、積極的な研修への参加の機会が設けられていた。	
57	105	○ストレスの解消策の実施 職員の業務上の悩みやストレスを解消する方策を採り入れている。(外部者と接する機会、職員相互の親睦、悩みの聴取、スーパーバイザーの導入等)	○			必要があれば個別に話し合う時間が持たれていた。また、職員全体で親睦を図るための食事会や、日帰り旅行なども実施されていた。	

項目番号		項 目	できて いる	要 改善	評 価 不 能	判断した理由や根拠	改善すべき点等の特記事項
外部	自己						
		3. 入居時及び退居時の対応方針					
58	107	○入居者の決定のための検討 グループホームに適した入居対象者であるか、十分に検討している。(介護保険被保険者証、診断書、入居申請に至る経過、生活や対人関係、入居者・家族の希望等)	○			紹介機関と協議、情報収集し、本人・家族とも面会した上で入居決定が行なわれていた。困難事例については、職員の意見も反映されていた。	
59	109	○退居の支援 退居は、契約に基づくとともにその決定過程が明確である。また、入居者や家族に十分な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○			在宅復帰された実績もあり、退居については家族と十分に話し合いが行なわれていた。退居後も、家族からの相談に応じるなどの支援がなされていた。	
		4. 衛生・安全管理					
60	112	○ホーム内の衛生管理 ホーム内の清潔や衛生を保持している。(食品、布巾、包丁、まな板、冷蔵庫、洗濯機等)	○			まな板や布巾の除菌、調理前の手洗いの励行、洗濯機の除菌など手順が決められ、毎日実施されていた。	
61	114	○注意の必要な物品の保管・管理 薬や洗剤、刃物等の注意の必要な物品については、保管場所、管理方法等を明確に取り決め、かつ、そのとおりに実行している。	○			薬はスタッフの目が届き、かつ入居者の手が届かない所に保管されていた。包丁・洗剤等についても、決められた場所に保管されていた。	
62	116	○事故の報告書と活用 けが、転倒、窒息、意識不明、行方不明等の緊急事態が発生した場合、事故報告をまとめており、サービスの改善につなげている。(再発防止の話しあい、今後に活かす意義づけ等)	○			ノートにヒヤリハットの記録として残されていたが、ホーム独自の報告書の形式はまだ作られていなかった。	事故報告書・ヒヤリハット報告書をマイナスイメージでとらえず、サービスの改善につなげるという意識のもと、ホーム独自の形式を整備され、サービス改善に活用されることが望まれる。
内部の運営体制 10項目中 計			9	1	0		
		5. 情報の開示・提供					
63	118	○調査等の訪問に対する対応 介護相談員や評価調査員等の訪問時には、情報を積極的に提供している。	○			必要な情報は積極的に提供していただいた。	
		6. 相談・苦情への対応					
64	119	○相談・苦情受付の明示 相談や苦情を受け入れるホーム側の窓口及び職員が明確であり、入居者及び家族にその利用の仕方を文書と口頭で繰り返し伝えている。	○			重要事項説明書やホーム内に担当者・連絡先が明示され、玄関には苦情受け入れ箱も置かれていた。また、家族の面会時には口頭でも伝え、相談しやすい雰囲気作りに努められていた。	
情報・相談・苦情 2項目中 計			2	0	0		

項目番号		項 目	できて いる	要 改善	評 価 不 能	判断した理由や根拠	改善すべき点等の特記事項
外部	自己						
		7. ホームと家族との交流					
65	122	○家族の意見や要望を引き出す働きかけ 家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、面会時の声かけ、定期的連絡等を積極的に行っている。	○			最低月1回の面会を促し、その時に意見や相談があれば聞かれていた。必要があれば随時、電話にて状況報告・相談が行なわれていた。	
66	123	○家族への日常の様子に関する情報提供 家族に、入居者の暮らしぶりや日常の様子を定期的、具体的に伝えている。（「たより」の発行や行事ビデオの上映、写真の送付等）	○			月1回の便りを発行し、状況報告がなされていた。また、面会時や3ヶ月に1度の「苑便り」の中で、行事・外出時及び日常の暮らしぶりが紹介されていた。	
67	126	○入居者の金銭管理 入居者が金銭の管理ができない場合には、その代替方法を家族と相談の上定めており、家族に定期的にその出納を明らかにしている。	○			金銭預かりがある場合、毎月1回家族あてに、金銭出納帳のコピーを送られ報告されていた。	
ホームと家族との交流 3項目中 計			3	0	0		
		8. ホームと地域との交流					
68	127	○市町村との関わり 市町村との連絡を密にとり、家族介護教室等の市町村事業を積極的に受託している。	○			運営推進会議の開催など、市町村との連携も図られていた。	
69	130	○地域の人達との交流の促進 地域の人達が、遊びに来たり立ち寄ってくれたりするように取り組んでいる。	○			近所の方が立ち寄られたり、野菜の差し入れがあるなど、日頃から地域の方との交流がもたれていた。また、介護保険の相談などにも気軽に応じられていた。	
70	132	○周辺施設等の理解・協力への働きかけ 入居者の生活の安定や拡がりのために、周辺地域の諸施設から協力を得ることができるよう、理解を拡げる働きかけを行っている。（商店、福祉施設、警察、消防、文化教育施設等）	○			派出所からは定期的な見回りがあり、地域のグループホームとも行事を共にするなど、積極的な交流が図られていた。また、買い物に利用する商店でも馴染みの関係をつくり、理解・協力が得られるよう努められていた。	
71	133	○ホーム機能の地域への還元 ホームの機能を、入居者のケアに配慮しつつ地域に開放している。（認知症の理解や関わり方についての相談対応・教室の開催、家族・ボランティア等の見学・研修の受入れ等）	○			認知症の家族を持つ近所の方や、一人暮らしの高齢者の方の相談に応じたりと、ホームの機能を地域に還元されていた。また、ボランティアの受け入れ、ヘルパー2級の研修の受け入れ等も検討されていた。	
ホームと地域との交流 4項目中 計			4	0	0		

※ (1)「管理者」には、管理者不在の場合にこれを補佐する者を含む。
(2)「職員」には、管理者及び非常職員を含む。